

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570200604		
法人名	特定非営利活動法人 生活ヘルプセンター宇部		
事業所名	グループホームむべ		
所在地	宇部市大字東須恵310-5		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果市町受理日	平成24年3月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成23年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人ひとりの状態を把握し、運営理念を共有すると共に、その人に合わせた心のこもったケアを取り組んでいる。介護度の重度化により、正職員全員が男性である。職員同士のチームワークがよく、働きやすい職場となっている。また、地域住民や学生がボランティアとして遊びに来られ、行事等で協力を得ながら積極的に交流を深めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は地域に開かれた施設として、多くの人々が訪れ、地域におけるケアの拠点となっています。施設長を始め、管理者、職員全員が家族的な雰囲気を大切にしておられ、地域や家族に協力を得て、馴染みの店での買い物や食事に行ったり、利用者の近所の人や知人が気軽に立ち寄れるなど、事業所を拠点に馴染みの関係が保たれ、利用者や家族、地域の人やボランティアの人たちにとって気兼ねなく集まれる場所であるとともに、心安らぐ場所となっています。事業所は日頃から医療機関と密接な連携もつておられ、これまでに多くの看取りの経験を積み上げておられます。職員のターミナルケアに対する理解は深く、「終の住処」としての意欲に満ちたケアは利用者、家族に大きな信頼と安心感につながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関とホールに掲示している。会議で話し合い、理念を共有し、職員全員で確認すると共に、ケアに努めている。	理念を事業所内に掲示し、パンフレットやむべ便り(家族向けと地域向け)にも掲載して周知を図っている。管理者、職員は理念を常に念頭において会議で話し合い、日々のケアに活かすよう積極的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として自治会に加入しており、顔なじみになっている。地域の方々がホームに遊びに来てくださったり、野菜の差し入れを持ってきてくださり、触れ合う機会が多い。	自治会に加入し、地域で開催される夏まつりや地蔵まつり、敬老会に参加している。風通しの良い事業所を目指しており、地域の人やボランティア、学生などが頻繁に訪れ、野菜を差し入れたり動物を連れて来たりと、利用者、職員は地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の研修や会合に関わり、認知症ケアの啓発に努めている。地域の方や学生等の見学・研修、実習生の受け入れを積極的に行っている。	/	/
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員で自己評価に取り組み、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は、会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。	自己評価は、毎月行っているスタッフ会議で話し合い、最終的に管理者がまとめている。外部評価結果について会議で話し合い、日常的なケアの振り返りとしている。評価を実施する意義について職員全員に浸透するまでには至っていない。	・自己評価を実施する意義についての全職員での理解
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。会議に参加されている市職員や地域住民、利用者の家族からの意見や要望を受け入れ、話し合いのもと、サービスに活かしている。	自治会長、民生委員、ボランティア、高齢福祉課職員、家族、利用者、職員が参加し、2ヶ月に1回開催している。利用者の状況報告や行事報告、外部評価への取組状況等について話し合い、意見交換して、サービスの質の向上に努めている。	・議事録の記載方法の工夫
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町担当者に、サービスについて分からない点を聞いたり相談するなど連絡を密にしている。	事業所が抱えている課題やわからない事があれば、市の担当課に直接出向き、相談するなど、常に情報交換などを行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、学習会で職員全員で正しく認識している。また、家族にも説明している。	マニュアルがあり、職員は学習会や日々のケアの中で職員同士が指導しあうなど、身体拘束について正しい認識をもっており、抑制や拘束のないケアに努めている。玄関の施錠は行っていない。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為を見逃さないように注意を払い、防止に努めている。虐待行為を発見した場合の対応や方法について、徹底的に周知している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで必要がなかったため、制度について研修を学ぶ機会がなかった。対応が必要な方には、随時話し合っている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に事業所の考え方やケアの取り組み、看取りについて、対応可能な範囲で、家族が混乱されないよう十分に説明を行い、理解と納得を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月2回、介護相談員が来訪され、利用者の相談にのっていただいている。家族会を設け、家族同士で話し合い、意見を出せるよう取り組んでいる。また、	家族は訪問時や電話、2ヶ月に1回の家族会や運営推進会議等で、利用者は2ヶ月に1回介護相談員が意見や要望などを聞いており、その内容を運営に反映させている。苦情相談窓口及び担当者、外部機関、第三者委員は明示しており、苦情処理の手続きも明確に定めている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	学習会を設け、意見を聞くようにしている。代表者や管理者は、職員の悩みや相談事も含めて、不満や要望を聞くように心がけている。	月1回のスタッフ会議の中で、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。代表者や管理者は、日常業務の中で職員からの意見、不満、要望など何でも言えるような雰囲気作りを心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの勤務状況を把握し、希望を聞き入れ、働きがいのある職場環境作りに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の質の向上に向けて、外部研修を積極的に受講している。外部研修の報告を学習会で発表して、知識や技術を身につけている。	外部研修は、段階に応じた実務的な研修や本人の希望に沿った研修に勤務の一環として受講の機会を提供している。内部研修では、知識だけでなく、実践力を身につけるようケアの方法を職員同士で学びあっている。	・研修計画の策定
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県宅老所・グループホーム連絡会に加入しており、その研修会に参加し意見交換を行い、積極的に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の状況を把握し、思いや不安を受け止め、信頼関係づくりに努めている。職員が理念を共有し、安心して暮らせるように努力している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談される家族の話をしっかり聴き、受け止め、信頼関係を築いている。サービスの利用状況等を事前に話し合いをしている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況等を把握し、対応が困難な場合は、他の事業所等との連携をとりながら、他のサービス機関につなげるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にとって生活の場であり、人生の先輩でもあり、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、支えあう関係づくりに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族がいつでも気軽に来訪できる雰囲気づくりに努め、日々の暮らしの出来事や気付きを伝えている。本人を支えていくために、家族との協力関係を築いている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や地域の方に協力していただき、買い物や馴染みの場所に遊びに行ったり、馴染みの人との関係を継続できるよう支援している。	家族や地域の人に協力を得て、買い物やなじみの店、食事などに行ったり、利用者の近所の人や知人が気軽に立ち寄れるなど、馴染みの関係が途切れないよう支援している。事業所に家族や親族が集まり、馴染みの関係が保たれている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く楽しく過ごせるよう支援している。孤立している場合は話しかけるよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事に招待したり、遊びに来ていただく等、継続的な関わりができるよう心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が一人ひとりの思いや意向について把握するよう努めている。困難な場合は、家族から情報を得たり、本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っている。	アセスメントでは、センター方式の「私の姿と気持ちシート」に利用者の思いを記載し、日常のケアの中で本人の話した言葉などをケース記録に記録している。本人の表情やしぐさから読み取れるよう、日頃から寄り添うケアを心がけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮し、職員が本人や家族と馴染みの関係を築き、生活歴を把握するよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の暮らしや生活のリズムを把握するよう努めている。本人のできる力を利用し、生活の中で活動していただけるよう支援している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを定期的開催し、本人や家族の要望を聞き、一人ひとりの暮らしに合った介護計画を作成している。	毎月1回スタッフ会議を開催し、利用者一人ひとりのモニタリングを行っている。利用者の要望や状態、月2回の往診時の主治医からの意見、面会時や電話連絡時の家族からの意見を参考にしながら3ヶ月ごとに評価を行い、6ヶ月ごとに介護計画を見直している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子や食事・排泄等、生活記録に記入している。職員の気付きは口頭や連絡事項帳に記入し、職員全員が確認している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況・要望を取り入れ、医療連携体制を活かし、生活が継続できるよう支援している。買い物等の外出の支援や可能な限り看取りの支援をしている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して暮らしていただけるよう、地域の方やボランティア・警察署・消防署等、協力しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	相談できるかかりつけ医との関係を築き、本人や家族と相談しながら受診できるよう支援している。	利用者、家族に納得してもらった上で、事業所の協力医療機関をかかりつけ医とし、内科、皮膚科、歯科の往診を週1回受けている。定期的な往診のほか、緊急時や、不安なときでも快く受診が出来るよう協力体制ができています。希望するとの医療機関にも職員が同行して受診している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、職員が見舞いできるよう支援している。病院や家族等と連携をとり、早期に退院できるよう支援している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の気持ちを大切に、家族と話し合っている。また、医師との連携をとり、安心して終末期を過ごせるよう支援している。急変した場合は、すぐに対応できるよう医療機関との連携をとっている。	入居時に説明し、段階的に家族と話し合いを進めている。家族や医療機関との連携が取れており、職印全員が終末期に向けた方針を共有している。これまで11人の看取りを行い、利用者の終の棲家として信頼を得ている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	マニュアルを作成し、職員全員で話し合い、手順に基づいて、対応できるよう指導している。利用者の状態を把握し、事故報告書やヒヤリ・はっと報告書をもとに、職員全員で事故防止に努めている。	ケース会議でヒヤリハット・事故報告書に基づく利用者一人ひとりに応じた事故防止対策を話し合っている。看護職の職員が応急手当や初期対応について指導し、緊急時や初期対応への備えができています。日常のケアの中で新人職員への指導も行っている。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応マニュアルがあり、消防署の協力を得て、年2回定期的に防災訓練を行っている。地域の協力は自治会でお願いしている。	防災マニュアルを作成し、年に2回、消防署の協力を得た防災訓練と、夜間を想定した避難訓練や避難経路の確認などの研修を行っている。運営推進会議でも議題として取り上げ、住民やボランティアの避難訓練や緊急連絡網への参加を呼び掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気になる言葉がけに気付いた時は、学習会で指導し、人として尊重し、十分配慮している。	利用者に対する尊敬の念やプライバシーの確保は、スタッフ会議や学習会で確認し、意識の向上に努めている。日常のケアの中で、気づいたことがあれば、職員間で注意しあうよう心がけている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から本人と馴染みの関係を作り、その人の状態に合わせて、希望や好みを把握できるよう支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で好きなテレビ番組を観たり、その人らしい暮らしができるよう、一人ひとりのペースに合わせた生活を支援している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が自己決定しにくい場合は、一緒に考え、本人に合ったおしゃれを心がけている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員やボランティアも利用者と一緒に食事を楽しめるよう支援している。利用者の力を活かし、食事の準備・片付け等を一緒に行っている。	昼食と夕食は業者の配食メニューで、事業所で利用者の状態に合わせて、刻んだりペースト食にしている。朝食は事業所で調理をし、差し入れの野菜や漬物を楽しんでいる。利用者は準備や片づけ等できることを職員と一緒にし、職員が優しく声をかけたり、笑いあったりとゆっくりと食事を楽しめるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた食べる量や栄養バランスを摂ることを心がけている。むせたり、飲み込みが悪い場合、きざみ食やミキサー食にして食事の工夫を行っている。食事や水分の摂取状況を毎日、記録している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の汚れがないよう、食後の口腔ケアを行っている。就寝前は、義歯の清浄を行い、保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で、排泄パターンを把握し、その人の状態に応じて、声かけしトイレ誘導を行っている。立位の困難な方は居室にて排泄介助を行っている。	職員は、利用者の排泄パターン、生活のリズムを把握しており、その人にあった排泄の支援を行っている。できるだけ排泄の自立を促すために、時間を見図りながらトイレ誘導をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に向けて食物繊維や乳製品を取り入れている。水分補給や適度な運動を働きかけ、自然な排便ができるよう取り組んでいる。排便が困難な場合、本人の状態に合わせて、便秘薬で対応している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者にその日の希望を確認し、体調をみながら入浴を楽しめるよう支援している。	入浴は基本的には一日おきで、午前中に職員2人対応で、時間を気にすることなく入浴を楽しめるよう支援している。利用者の状況に合わせて、シャワー浴、清拭、足浴などで対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。利用者の体調に合わせて、ゆっくり休息できるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の台帳があり、職員はそれを確認し、薬の内容を把握している。服薬時にきちんと服薬できたか確認している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活を継続していくうえで、一人ひとりに合った楽しみや役割を見つけて、家事手伝い等をお願いし、感謝の言葉を伝え、豊かな暮らしができるよう支援している。	利用者一人ひとりの出来ることを見つけて、お盆、テーブル拭き、洗濯物たみなどの活躍できる場面や、貼り絵、芝居の鑑賞、歌や詩吟での発声練習、ボランティアの人との会話など一人ひとりにそった楽しみ事や気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の本人の気分や天候により、ベランダで日光浴をしたり、職員やボランティアと一緒に散歩や外食、ドライブ等に出かけている。	天気のよい日には出来るだけ近所を散歩したり、ベランダに出て外気浴したり、家族やボランティアの人に協力してもらって、花見(桜、コスモス)やドライブなど、外出を楽しめる支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族に相談しながら、お金を預かり管理している。外出時に一緒に付き添い、本人が支払えるよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら、本人が電話を使用することを個別に支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって使いやすい配置や馴染みの物を採り入れたり、生活感や季節感のある物をうまく活用し、居心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関やリビングの壁には、職員とボランティアの顔写真や利用者の写真が飾っており、民芸調の額絵や季節の飾りがあり、明るく清潔感あふれるリビングは利用者がゆったりとくつろげる空間となっている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で、一人ゆっくりくつろげる環境を整えている。利用者が椅子やソファで過ごし、居心地のよい空間となっている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごせるよう、家族から家具や生活用品、馴染みの物を持ち込んでいただいている。	使い慣れた寝具類やタンス、テレビ、ぬいぐるみ等を持ち込み、壁には毎年の誕生日の写真、家族との集合写真などが貼られ、家族とのつながりを大切に、その人らしさが感じられる居室となっている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態を把握し、混乱や失敗のないよう一人ひとりのできる力を見極めて、環境整備に努めている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームむべ

作成日: 平成 24年 2月 29日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	14	内部研修の計画を立て、実践する。	スタッフのレベルアップ、又、知識、実践力を身につける。	内部研修年間計画を作成し、毎月学習会を行なう。	1年
2	5	議事録の記載方法の工夫。	発表者の言葉をまとめ、誰が見てもわかりやすいよう記載できる。	書記は誰でもできるよう、毎回交代で行なう。又、記録しやすいよう用紙を作成する。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。